

## 32. 〈NPO 法人 ジェイズマスクワイア 事業報告書〉 精神障害者に対する音楽交流による自殺防止と社会復帰

代表者名 公山雅亘（NPO法人ジェイズマスクワイア代表）

### 【研究目的】

2001年から交流する寝屋川市社会福祉法人「みつわ会」の精神障害者の会。障害者の多くは「ひきこもり」「自殺未遂者」。彼らと現在まで、不定期に歌うことを通じて交流を続けてきた。今後はこの活動を音楽ワークショップ形式にし、寝屋川の地域支援センター「あおぞら」で月例で行う。また障害当事者が我々主催のコンサートに参加するなどの音楽交流により、何名が社会復帰したり、自殺予防に影響を及ぼしたかの研究。

### 【研究の必要性】

ここ12年連続で自殺者数が30,000人を上回り「自殺大国」といわれ久しい日本。社会には「うつ病」と呼ばれる精神の病が蔓延し、精神障害と認定される人々の数が年々増加していることは、大きな社会問題となっている。まさにそれらのうつ病患者は自殺予備軍であり、どのようなことがきっかけでうつ病になったか、またそれらをどのようにして克服していけば良いか、を探ることは重要であり、現代社会においてこの研究は必要であると考えます。

### 【研究計画】

- 寝屋川市で毎月定期的に音楽交流会を行う
- ボランティア6名と音楽講師2名を派遣
- 年間2回のコンサートを行い、音楽を通じた精神障害者と健常者との交流を持つ
- プロのミュージシャンの演奏により質の高い音楽会を作り、精神障害者の家族会の皆さんにも参加していただく
- 1年間の月例会、コンサート終了後に精神障害当事者へのアンケートを行い、自殺防止や社会復帰意欲の増進に与えた影響をリサーチする

### 【実施内容・結果】

- 月例会実施  
場所：みつわ会あおぞら（寝屋川市葛原1丁目27-20）
  - ① 24年11月10日（ボランティア6名、ピアノ講師1名、歌指導者1名・参加当事者15名）
  - ② 24年12月8日（参加当事者12名）

- ③ 25年1月19日 (参加当事者10名)
- ④ 25年2月9日 (参加当事者16名)
- ⑤ 25年3月9日 (参加当事者11名)
- ⑥ 25年4月6日 (参加当事者13名)
- ⑦ 25年5月4日 (参加当事者9名)
- ⑧ 25年6月1日 (参加当事者14名)
- ⑨ 25年7月13日 (参加当事者12名)
- ⑩ 25年8月10日 (参加当事者15名)
- ⑪ 25年9月7日 (参加当事者14名)
- ⑫ 25年10月5日 (参加当事者16名)

#### ○コンサート実施

1、平成25年1月12日

場所：プール学院メアリーズホール（大阪市生野区勝山北1丁目19-31）

14：00開場

14：30開演

17：15終了

みつわ会けろちゃんず約10名参加

2、平成25年8月10日

場所：大阪女学院ヘールチャペル（大阪府中央区玉造2丁目26-54）

12：30開場

13：00開演

19：00終了

みつわ会けろちゃんず約15名参加

#### ○結果

##### A、アンケート

- 1、歌う会の定期開催によって仲間意識が深くなった。我々NPOのメンバーと障がい者同士がメール交換などもするようになった。
- 2、自分たちで料理することなどを通じて元気になる。メニューを自分たちで考える自主性が出てきた。
- 3、歌うことにより明るい表情になる。今まであまり笑わなかった障がい者が笑顔になることがあった。
- 4、ハイキングを通して外に出ることができる（引きこもりの緩和）。外出恐怖症の方がハイキングを楽しむことにより、症状を克服できた。
- 5、児童との交流により純粋な子供と触れ合うやすらぎが感じられた。子供と会話することを楽しむ障がい者が増えた。

- 6、みつわ会「ケロちゃんず」としてイベントなどに参加することへの意欲が増してきた。家を出て練習場所へ向かう、といった積極的な参加が見られた。
- 7、大勢の人の前に立つことで対人への恐怖感が緩和された。人前でしゃべれなかった人が生活発表の文章朗読ができた。
- 8、長距離のドライブで遠出をすることができた。普段は車にも乗れない人が大阪から横浜まで車で移動できた。
- 9、音楽効果によって抗うつ剤を使用する頻度が少なくなった人があらわれた。実際に薬の量が減少した。
- 10、地元でのクリスマスコンサート開催が作業所で働くことの励ましになった。このコンサートに参加する期待と喜びによって、労働を楽しんでやれたと報告された。
- 11、若い人たちとの交流がやる気の回復になった。特に普段はめったに触れ合うことのない高校生との交流は楽しかったと意見があった。

## B、実績

- 1、計2名の就職と就労。

○ロイヤルホームセンター森ノ宮店に就職。

○ほっかほっか亭寝屋川市役所前店に就労（アルバイト扱い）

- 2、自殺未遂者が減少した。

### 【考察と今後の課題】

まずこの研究を一年通してやってみて、一番感じたことは、健常者と障害者の交流の大切さです。

精神障害者の多くは「自分たちの居場所はこの社会にないのでは？」という「疎外感」というものに囚われています。

実際数年前に精神障害者の入所、通所希望者が増加してきたとき、みつわ会の建物を増築せねばならず、みつわ会の所長自身が自宅を提供し、精神障害者の集う施設を作ろうとしましたが、近隣の反対にあい、計画はとん挫しかけました。

やっとの思いで与えられたのが今回の交流場所「あおぞら」だったので。

それ以降、地域の方との交流や、精神障害に対する理解を求める活動に少しずつ力を入れるようになって来ました。

そして我々NPO法人が後押しをし、地域での交流会を企画し、また今回の音楽交流会を開催するにあたって、当事者の親族や地元の方を招待して共に音楽を楽しむ、という方法を実現して来ました。

アンケートに見られるように、抗鬱剤の使用量が実際に減少したり、また一番大きな問題である「自殺」をしようとする方が減少したことは大きな収穫です。

ただこの「自殺未遂」に関しては、多くの当事者がしゃべりたがらないので、ハッキリし

た対昨年比の減少者数は掴みきれませんが、多くの障害者の表情が明るくなった、という事実から想像するに、今年は1人にとどまったように思っています。

月例会参加当時者の平均人数12人ということからすると、その現象数は大きな数ではなかったか？と感じています。

そして社会復帰に関しては1名がロイヤルホームセンターに正式入社したことは、我々にとっても大変大きなニュースであり、多くの人にとっても励ましになりました。

また何より、その社会復帰された方から直接「この活動によって社会復帰できたと思う」と告白されたことは、言葉で表せない喜びを感じました。

その方に触発されるように、あともう一方がアルバイトながら、就労できました。

2名の方の就労事実は、実際我々の目標であった参加当事者のうち20%の就労は果たせませんでした。少なくとも来年度に繋がる明るい材料といえるでしょう。

#### ○今後の課題

この活動に関して、一番重要なことは「交流」そして障がい者と健常者の「触れ合い」です。そのためにはより多くの交流回数を目指すことが一つの課題です。

まず月例会に参加する方が、その月によってなかなか一定しなかったこと。

1回参加されて、3～4か月の期間があいて参加、という人が出来るだけ毎回到近いぐらい来ていただけるようにするにはどうしたらよいか？

などをディスカッションし、改善して行く必要があります。

定期参加することによって、より我々のメンバーや地域の方との交流頻度が増え、より良い有効関係が築けるのではないかと考えています。

それにはプログラムの内容を、より馴染のある楽曲にしていくこと、またプログラムの進め方を、開催時間約90分の中で組立を考慮して行く計画です。

そして多くの皆さんに好評であったコンサート参加は、だいたいの予想通り10～15名でしたが、これを来季はさらに人数が増えて行くように計画します。

寝屋川市内から大阪市内に出て行くにあたって、バスでの送迎をすること。電車に乗れない人が多くいることに気付いたことによる改善アイデアです。

またより近隣、地元の方に障害者に対する理解を求めることも課題として挙げられます。

一時期行っていた、京阪電車沿線でのストリートライブの再開。またその時にトラクト配布するなど、地元の住民との接点を増やすことも課題の一つである、といえます。

そのような活動を元に、家族会や地元住民団体、企業などに働きかけ、より積極的に就労機会を求めて行く必要があるでしょう。

また今回のアンケートで三家(みつや)クリニックの三家先生にご協力いただいたように、精神科医の協力を更に求めて行きたいと思っています。

【経費使途明細】

交通費	ボランティア交通費 大阪市内～寝屋川市（12回×6人×¥1,000）	¥72,000
講師費1	月例音楽講師謝礼 ピアノ講師 1名×12回×¥8,000	¥96,000
講師費2	月例音楽講師謝礼 歌指導者 1名×12回×¥8,000	¥96,000
謝礼	コンサート出演演奏者謝礼 4人×2回×¥70,000	¥560,000
音響経費	音響経費 2回×¥105,000	¥210,000
会場費	コンサート会場経費 2回×¥80,000	¥160,000
	合計	¥1,194,000